

## ●ビデキチのお楽しみ倶楽部③

### 「10年ひと昔」というけれど、 1年ひと昔と言ってもいいのでは…

#### ●樋畑正士

私の所属するビデオクラブのメンバーには、ビギナーもいるが、キャリア10年前後の人たちも多い。そこで、今回は、ビデオ歴では人後に落ちないと自負する面々の数々のタイプをご紹介しながら、さまざまなビデオの楽しみ方を考えてみたい。

#### ●徹底的こだわり型

ビデオ業界の事情にやたらと詳しく、新製品情報をいち早く集め、発売に先立つ内覧会には万障繰り合わせて出かけ、念入りに品定めするだけでなく、滔々と講評を披露するタイプだ。

私も負けじと追随するが、職業の選択を誤ったのではないかと思うほどの専門知識の該博さにはただただ脱帽。そして、それ以上に敬服するのは、次々と新製品に切り替えていく決断力(財力?)。それに、メカに強いばかりか、撮影・編集技術も玄人だし、音楽の造詣も深いというのだから、困ったものだ。

だが、このようなハイアマチュアがいるおかげで、常に刺激を受け、私のビデオライフがマンネリ化せずにすすんでいるのだろう。とはいっても、その影響力をまともに受けると、こちらが欲求不満になり、諦めの境地に陥りかねないので、適当な距

離を置いて接する必要があるような人たちだ。

#### ●趣味と実益両立型

このタイプにはふたとおりある。ひとつは、結婚式などのイベントの撮影依頼を受けて、業務用器材を駆使して手堅くまとめていくセミプロともいえる人たちで、余暇に個人的なビデオを楽しむというタイプ。もうひとつは、趣味がメインで、頼まれれば結婚式も撮るといったタイプ。

前者の作品には、技術的には教えられるところが多々あるが、どちらかというと型にはまったものが多いように思えるのは、パターン化して編集する習性が身につけてしまったからだろうか。これに対して、後者はベテランといってもアマの域を超えないから、バラエティに富んだ作品づくりが多いようだ。

どちらかどうとは言えないかも知れないが、作品の面白さは実益に反比例しているように思えてならない。

#### ●むっつり堅実型

日頃はあまり意見を述べず、作品を通じて自己表現するタイプ。しかし、こつこつと地道な努力を積み重ねて、例会やコンテスト応募で見応えのある作品を披露する。したがって、応募

作品の入賞率が高いので、賞金、賞品の獲得率も高い。

だから、口さがない人は彼らを賞金泥棒と呼ぶ。ご本人の胸中は定かではないが、別の意味で「趣味と実益両立型」ともいえよう。このタイプは研究心と好奇心が極めて旺盛なので、大いに学ぶべき点がある。

#### ●ゴーイング・マイウェイ型

肩肘張らずにビデオライフを楽しむタイプで、いろいろなパターンがある。最も多いのが、旅行、行事、家族など被写体を限定して撮りだめていく人たちである。作品の構成やナレーションを通じて、被写体に対する作者の思いが伝わってくるので、「ああ、この人はほんとにビデオが好きなんだなあ」と感じさせる、安心して付き合える人たちだ。

一方、同じビデオ好きでも、クラブの運営には並々ならぬ貢献をしながら、編集器材を買って揃えても減多に活用しない人、早くからクラブに所属しながら、BS・CSや大画面に関心が強くて、いまだに自分のカメラを持たないという立派な人もいます。

でも、こういう楽しい人達がいるので、私たちのクラブが成り立っているのかも知れない。

●ビデオ歴10年選手が思うこと

私たちのクラブが発足したころは、ポータブルタイプといっても、カメラは単管式の肩寄せ式で3キロ近く、デッキはバッテリー込みで5キロ前後のセパレート型だった。しかも、最低被写体照度35~100ルクス、水平解像度250~300本、消費電力約15ワットだったので、不満もあったが、当時の最小・軽量の魅力に一応は満足したものだ。

それから約10年、今では板式CCDの一体型が主流になり、この1年は1キロを割る小型・軽量・薄型化の激戦が続いて、580グラム(本体のみ)までになった。しかし、新製品は3ヶ月の寿命とまでいわれるようになってしまった。この間、私でさえ、カメラ5台、デッキ8台を買い替えている。他の仲間たちも似たりよったりで、買い替えに忙しい。こんなひと握りのユーザーが現在のビデオの愛好者の裾野を広げ、牽引車となって今日のビデオ市場を育ててきたともいえよう。もって、瞑すべきだとしようか。 VC



## TOPICS NEWS 世界初の試み、50のスピーカーによるデザインの提案

建築音響設計家の唐澤誠氏が「和のスピーカーと空間融合性の追求」をテーマに、新しいスピーカーデザインを提案した個展を行なう。今までのAV機器というスピーカーのスタイルをどこまで変えることができるのか興味はつきない。東京のAVファンはぜひ足を運んでほしい。

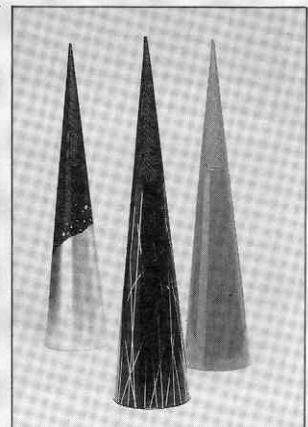
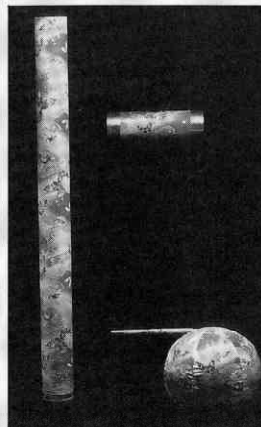
- 内容：①機能拡大を追求したスピーカーデザイン
- ②動作を追求したスピーカーデザイン
- ③素材の拡大を追求したスピーカーデザイン

④人間心理を追求したスピーカーデザインを始めとした10項目の提案

●日時：平成3年12月3日(火曜日)~6日(金曜日) 10:00AM~8:00PM

●場所：SOMIDO(ソニービル) 東京都中央区銀座5-3-1 ソニービル8F TEL.03-3289-5310

※なお、詳しい問い合わせは唐澤誠建築音響設計事務所 TEL.03-3379-0123まで



▲斬新なデザインの音場型スピーカー